

研究課題：低位鎖肛における出生時超音波所見と術後排便機能の関連性についての検討

1. 研究の目的

鎖肛に対する経会陰エコーは高位診断の一助として有用とされ、当科でも鎖肛の児に対して経会陰エコーにて肛門皮膚と直腸断端の距離 (distal rectal pouch to perineum distance; P-P distance) を測定し術式の選択、決定に重要な役割を果たしています。

また、低位鎖肛は一般的に排便機能の予後が良好と考えられていますが、排便機能予後が不良の方が一定数存在することも事実です。出生時の P-P distance が排便予後に関連しているのか調べることでその後の患者様のフォローに活かすことが本研究の目的です。

2. 研究の方法

2006年1月1日から2020年12月31日までに低位鎖肛に対して根治術を施行した患者様を対象とし、患者背景・術後経過など（性別、出生時体重、手術時日齢、鎖肛の分類、P-P distance、合併奇形、術式、手術時間、排便スコア）の診療情報を調べてまとめます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：外科 科長 川嶋 寛
研究分担者：外科 医員 津坂翔一

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2025年9月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構
埼玉県立小児医療センター
医事担当（代表 048-601-2200）